

# 企業ニュース ニトリホールディングス

(東証1部：9843) <https://www.nitorihd.co.jp/>

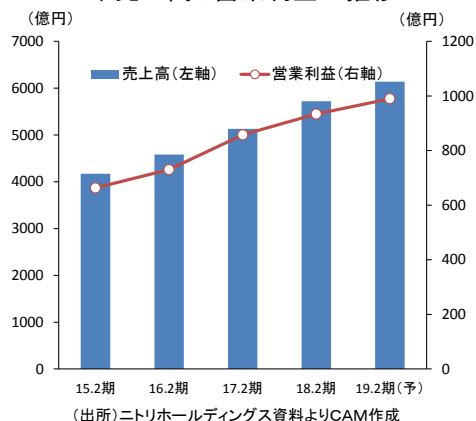
作成者：荒木晶子

## 32期連続の増収増益を目指す

1967年創業の家具・インテリア販売チェーン。グループ内で製造・物流・販売を行う独自のビジネスモデル「製造物流小売業」を確立。店舗を通じた販売を主力としているが、直近では通販や法人といった販売チャンネルにも注力し、顧客層の拡大を図る。また、当社は自社で開発する高機能商品の低価格販売を強みとしている。2019年10月には消費増税が予定されており、得意とする低価格販売が好感され、国内シェアの拡大が期待できよう。

19.2期は、32期連続の増収増益を計画している。原材料価格の上昇や、人件費・物流費などの費用増で利益が圧迫される中、商品入れ替えなどの原価対策や販管費のコントロールにより、計画達成を目指す。

◇売上高と営業利益の推移



## 原価低減策を進めて利益率の改善を図る

19.2期・第3四半期累計(2月21日-11月20日)の連結業績は、売上高が4,485億円、前年同期比6%増、営業利益が780億円、同11%増。国内の既存店売上高は、客数増により同2.2%増となった。吸湿発熱素材を使った「Nウォーム」シリーズの販売が好調だった。注力した通販の売上高も同28.2%増と約30%の伸び率を維持した。一方、粗利益率は54.6%、同0.1ポイント増に留まった。仕入れにかかる為替レートの影響が大きかった。

19.2期の通期会社計画は、売上高が6,140億円、前期比7%増、営業利益が990億円、同6%増。会社計画に対する進捗はインラインであるとし、通期計画は据え置いた。12月の国内既存店売上高は、前年同月比4.2%増と堅調だった。利益面では、原材料や生産地を集約するなどの原価低減を進める他、パッケージサイズの見直しなど物流の効率改善に取り組み、利益率の改善を図る。足元の為替が米ドルに対して円高傾向であることも追い風となる。

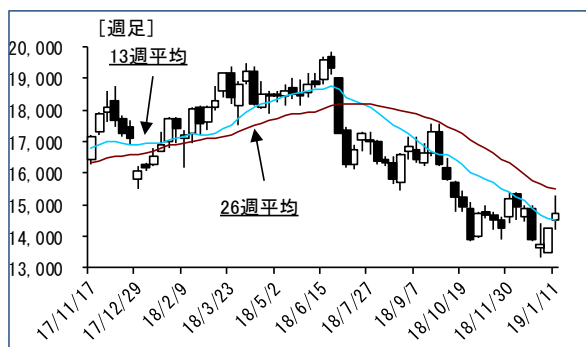
## 【株価動向・投資判断】

第3四半期累計の業績が市場予想を下回ったことが嫌気され、株価は下落した。中長期では、国内シェアの拡大による売上成長、コストコントロールによる利益率の改善が期待される。

<9843 ニトリHD 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.2	512,958 ( 12)	85,776 ( 17)	87,563 ( 17)	59,999 ( 28)	540.9	記82.00
18.2	572,060 ( 12)	93,378 ( 9)	94,860 ( 8)	64,219 ( 7)	574.5	92.00
19.2 予	614,000 ( 7)	99,000 ( 6)	100,000 ( 5)	68,000 ( 6)	606.1	97.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)

株価(2019/1/11)	14,720 円
昨年来高値(高値日)	19,850 円(18/6/19)
同 安値(安値日)	13,330 円(18/12/25)
予想 P E R (19.2 予)	24.3 倍
1株株主資本(PBR算出用)	4,319.3 円
P B R	3.41 倍
予想配当利回り	0.66 %
(1株当たり配当金97.00円)	
R O E (18.2)	15.4 %
発行済み株式数	11,444 万株